

夏のイベント★参加者募集!!

地域の学びプログラム対象事業

中央図書館

1. でかどうクラフ【ブックトーク きみにぴったりの本を見つけよう!】

日時：7月27日(水) 14:00~14:40

場所：中央図書館 4階 視聴覚室

対象：小学校5~6年生 定員：15名(先着順) 費用：無料

申込み：7月15日(金) 10:00~ 中央図書館へ電話申込み

狭山台図書館

2. こわ~いおはなし会

日時：8月10日(水) 14:30~15:00

場所：狭山台図書館 2階 視聴覚室

対象：小学校3~6年生 定員：10名(先着順) 費用：無料

申込み：7月30日(土) 10:00~ 狭山台図書館へ(電話申込可)



3. わくわくサイエンス 【ピンホールカメラとレンズカメラの実験】

日時：8月14日(日) ①13:00~14:30 ②15:00~16:30

場所：狭山台図書館 2階 視聴覚室

対象：①小学校1~2年生(要保護者同伴) ②小学校3~6年生

定員：各回8名(先着順) 費用：130円

申込み：7月23日(土) 10:00~ 費用を持って狭山台図書館窓口

※全イベント、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、日程変更や中止の場合もありますので、図書館のホームページをご確認ください。

毎月23日は「家庭読書の日」 狭山市教育委員会

図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。
休館日や開館時間、イベント等の最新情報も こちらから
ご確認ください。



狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801
狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



よむぞうタイムズ

84号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2022.7.15発行

いま世界はたくさんの課題をかかえている。
みんなが安心して暮らすには、
どうしたらいいのだろう。
頭をつかって、考えよう。
未来をつくるのはきみたちだ!!



「ヒットラーのむすめ」(J57)

ジャッキー・フレンチ/作 さくま ゆみこ/訳 鈴木出版



アンナが空想ゲームの中で始めたヒットラーのむすめの物語。お話のはずなのにマークはいつもと違う何かを感じていた。ヒットラーにむすめがいたら、戦争を止められたのだろうか? ラジオからは、大量ぎゃく殺のニュースが流れてきた。今も世界のどこかで紛争に巻き込まれ、苦しむ人たちがいる。

「ようこそ、難民!」(J334I)

100万人の難民がやってきたドイツで起こったこと
今泉 みね子/著 合同出版

2015年から翌年にかけて、ドイツに100万人をこえる難民がやってきた。マックスのクラスにもシリアからタミムという子が転校してきた。戦火からのがれてきた友だちの力になりたいが、あまりにも多い難民の数に「難民の受け入れを制限をしろ」という大人たちも出はじめた。ドイツで本当に起こったできごと。



「ぼくらのスクープ」(JP7)

赤羽 じゅんこ/著 講談社



ピンポンダッシュの犯人にされたイダッチ。「ぼくの名誉がかかっているんだ。」真犯人を見つけて学級新聞の記事にするぞ。真実を追求して世の中に伝えるのが新聞の役割だ。でも、写真担当の「魔王」こと堤は「真実かどうか、ものごとの見方は人によってちがう」なんてわけのわからないことを言いだした。スクープまでの道のりはまだまだ遠い。

「貸出禁止の本をすくえ!」(JS7)

アラン・グラッツ/著 ないとう ふみこ/訳
ほるぷ出版



エイミー・アンは、言いたいことも言えない内気な女の子。学校の図書室で本を読むのが、何よりの楽しみだった。ところがある日、大好きな本が「貸出禁止」にされちゃった。いったいなぜ? 本を読む自由を取り戻せ!

エイミーと仲間たちが立ち上がった。



「嘘吹きネットワーク」(JP7)

久米 絵美里/著 PHP研究所

SNSに投稿された何気ない写真や動画。「いいね」がついて拡散され、話題になればなるほど情報に悪意が向けられる。理子のまわりでも「大量のデマや偽動画」が飛びかうようになった。それが「嘘つき写真館」で作られているとつきとめた理子は、写真館にやってきた。薄暗い店内にいたのは「嘘でみんなを幸せにする」と言う少年だった。



「夏に降る雪」(JP7)

あんず ゆき/作 佐藤 真紀子/絵 フレーベル館



いやいや参加した劇で大河は主役を演じることになった。東京から疎開してきた少年が、ほかの生徒たちと防空壕を掘るというあらすじだ。ここ佐世保には、戦時中子どもたちが二年間掘り続けた大きな防空壕が残っていた。「戦争は、うちらが知らんあいだに始まるんやから」

劇を通じて、大河は自分たちに託された大切な役割を知る。

「平和の種をまく」ボスニアの少女エミナ(EO才)

大塚 敦子/写真・文 岩崎書店

エミナが生まれたのは、戦争のさなか。同じボスニア人なのに違う民族同士が3年半ものあいだ戦っていた。戦争で壊された国には、住む家も働く場所もない。

「戦争にならないようにするには、どうしたらいいんだろう?」いま、エミナたちは共同農園でみんなといっしょに野菜を育て、新しいコミュニティを築き始めている。



「イクバルの闘い」世界一勇気ある少年(JFダ)

フランチェスコ・ダダモ/作 荒瀬 ゆみこ/訳
鈴木出版

夜明けから日暮れまで、毛くずがまう小屋の中で織機にくさりてつながら働かされる子どもたち。家族の借金を返せば家に帰れると思っていたのに、新しく来たイクバルはどんなに働いても「借金はなくなる」と言う。

「逃げるんだ!」子どもたちを自由にするために、命がけで闘った実在する少年の物語。



「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は狭山市の教育委員会がおすすめしている本です。このマークが目じるしです。ぜひ、読んでみてね。